

図書館たより

号数 第77号
発行日 昭和62年6月30日
編集発行 島根県立図書館
松江市内中原町52
TEL (0852) 22-5725
印刷 島根印刷株式会社



「100まんびきのねこ」より



私の青春と読書

島根県教育長 松井邦友

戦後間もなく、西田幾太郎の「善の研究」を買い求める人たちが、前夜から岩波書店の前に行列をつくったというような話は、もう私たちの同世代の感傷に過ぎなくなった。

私たちの青年時代には、何となく漠然としたものではあったが、必読の書といわれるものがあった、単に「読みたい本」というよりは、「読まなければならない本」を選んで、時には自から発掘して読んだ。つねに「如何に生きべきか」が主題であった。

「善の研究」など、19才の私にはさっぱり分らない。「個人あって経験あるのではなく、経験あって個人あるのである」という個所で、倉田百三は、興奮した模様を「愛と認識との出発」に書いているが、私などは己の探究心の低さを痛感するばかりだった。

この本など、よく理解できないまま、今でも他の数冊の本とともに私の蔵書の中心部に置いている。いまだに必読の書に取りつかれているのかもしれない。

ところで、人生経験をへるにつれて、読みかえすたびに、いつも新しい発見と喜びを与えてくれる本

がある。

「幸福な家庭はどれも似たものだが、不幸な家庭はいずれもそれぞれに不幸なものである」

これはご存知、トルストイの「アンナカレーニナ」の書き出しであるが、青年のころは、この意味さえとらええなかった。多少の人生経験をへてきた者なら、恐らくこの小説の冒頭からある種の実感をもつてうなずくに相違ない。

学校でも、悩みをもつ生徒は様々である。似ているように見えてもみな異なる。「一人ひとりに目を向けて」と言われるのも、一つにはここのところを言っている。

青春時代の読書をふりかえてみると、いつも「如何に生きべきか」が念頭にあり、「読まなければならない本」に取りつかれていた気がする。最近は何論、読みたい本を読むが、折にふれ手にする本は、やはり旧制中学校時代に習った古典か、青春時代に読んだ本である。

大田市立図書館

大田市大田町大田イ140-2
TEL 08548-2-1898

●大田に図書館が出来たのは、明治44年に当時の郡役所構内へ「安濃郡私立教育会図書館」が設立されたのがはじまりです。大正14年の記録に「和漢洋書3,118冊、閲覧者3,465人」とありますから、1日平均約10人の利用者があったこととなります。

しかし、この建物もその後、2度も移転し、第2次大戦を経て終戦となり、図書館もその機能を全く失いました。

昭和25年に図書館法が公布されて各地の図書館活動が活発になりはじめました。昭和31年に大田町出身の故和田哲夫氏の寄贈を基金として「大田市立図書館」が創立され、更に再度の寄付によって昭和38年、現在の場所に鉄筋二階建の図書館を新築、3万冊の蔵書を有し、貸出し冊数4万5千冊の図書館になりました。

●現在の図書館は、昭和61年に同じ場所に市民センターが竣工し、その二階に移転したものです。

昭和61年の蔵書数は4万冊、貸出し冊数は5万6千冊、閲覧者数は3万3千人ともなり、早くも書架の不足、閲覧室の狭隘を感じはじめています。

●市民に図書館の役割りをよく知って、利用していただくために、次のようなことを行っています。

①市の広報（毎月2回、市内全戸に配布）に図書館の欄800字分を特設して、「図書館あんない」などを連載。

②「新着圖書の紹介」を閲覧用として作成し、各公民館へ掲示用に配布。③有線放送を利用して図書館案内をする……等、市民への啓蒙とPRにつとめています。

このほか、レファレンスについては、「わからないことがあったら図書館へどうぞ」と機会あることに呼びかけていますので、ご質問に対しては出来るだけ満足していただけるように、調査をしてお答えするよう努力しています。昨年は、郷土史・人物・文字・産業経済等の広い分野にわたって734件もありました。隣接市町村の図書館、県立図書館や国会図書館にお世話になったこともあります。

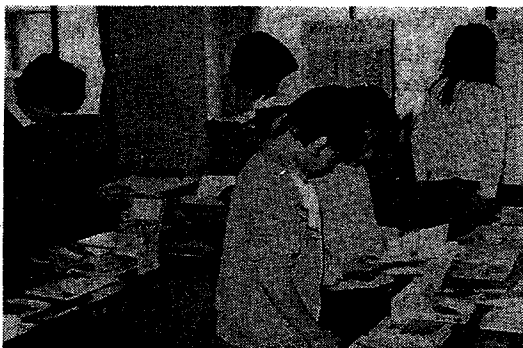
●図書館主催の行事を次のように実施しています。

①「おはなし会」は、読書に親しむ子どもの育成をねがって、毎月2回職員が幼児（低学年児童も含む）を対象に、絵本の読み聞かせ、紙芝居、映画などを実施しています。幼児の場合は特に親子同伴が多いので、親の読書指導や選書の参考になることもあると思います。②読書週間にちなんだ展示会には春は子ども、秋には成人を対象とした圖書の展示を実施しています。同形式の展示

を数年間繰り返すことによって、より多くの市民に図書館の願いが理解していただけたと思います。

このほかに、「古文書を読む会」を主催、郷土の近世古文書を教材に年6回開催。「夏期教室」は毎年7月末に、児童を対象に、天文・昆虫・地質などをテーマにして開催。「歴史教室」は成人を対象として、年に2回、市内や近郊の史跡を探訪しています。

春の読書週間の展示会



●文庫活動や親子読書の活動も活発です。大田市は人口3万8千の小規模都市ですが、面積は松江市の倍もあります。市の中心部にある図書館まで出てくるのには、かなりの距離があります。このような地理的条件のなかにあって、昭和36年頃から貸出し文庫が開始されたり、昭和55年に市内の読書会が全国や県の読書推進運動協議会から表彰を受けたのも、理解のある協力者と熱心な指導者のおかげだと思います。

現在では、公民館やボランティアによる12の文庫と幼稚園や保育園での18の親子読書会などが側面から図書館活動を支えています。

●高齢化社会をむかえ、視覚障害の人々に市の「点字の広報」や「声の図書」をお世話しています。

「声の図書」というのは、ボランティアの「ひびきの会」で作製された録音テープのことです。このテープの管理と貸出しに図書館が協力しておりまして、昨年利用されたテープは延べ1,196本にもなっています。（このテープの配送については、郵政省より郵送無料の認可を得ております）

今日も閲覧室の机には、来館者の誰かが、そっと活けた赤いバラの花が、部屋を明るく感じさせています。

私たちは、地域にむすびついた特色のある図書館をめざして、市民に親しまれる市民図書館になるよう努力したいと思います。

読書について思う (読書体験記入選作品から)

邑智郡桜江町 本・山高子

ある日、婦人会の話し合いの席で「2・3人でもよいから読書会を始めてみたらどうだろうか」「一般の母親へも勧誘してみよう」という意見が出ました。早速第1回目が、59年6月9日の夜に決まり1時間の予定で実施しました。初め読書をし、そのあとその本についていろいろ話し合い、意見を出しあっているうちに1時間はあっという間にすぐ終わってしまいました。参加者は10人位で、資料は指導者が持ちより用意されたものでした。

私は、仕事を持っており、姑さんとも一緒に生活です。なかなか自由時間がありません。夜、新聞に少し目を通す程度で本を手にするのはほとんどないと言ってよいでしょう。そんな私にとって、読書会は大きな楽しみになりました。皆さんは、「ちぎり絵」「俳句」「習字」などいろいろ勉強されますが、私にはそんな余裕がなくうらやましい限りです。でも、私は月1回の読書会に参加して何か得るものがあると喜んでいきます。

ただ、私が残念に思うことは、幼い子供を持つ母親の参加が少ないことです。出来れば子供も共に参加して母と子が一緒に読書し、その感想を素直に語り合えばどんなによいでしょう。このような親子読書会活動は、親子の愛情にもつながっていくと思います。

私の子供のころは、昔話を父や母から子供へ、そして祖父や祖母から孫へ、また近所の子供たちへと、口から耳へと語り伝えられたものです。夜、寝物語をしてもらわないと眠れなかったあのころがなつかしく思われます。幼いころに聞いた話は忘れられないものです。最近ではテレビを見る時間が多くて子供に寝物語をしてやれるお母さん方が少ないのではないのでしょうか。いや、寝物語をするための良い材料をもっている母親が、きわめて少ないのではないのでしょうか。

そこで、私たちは、せめて地区の子供たちだけでも仲良しになりたいと、子供と婦人会とのふれあいの会をいろいろ計画して、夏休みに実施しています。子供たちと楽しくゲームをし、また、食事を一緒にし、必ず読書も取り入れています。子供たちは、毎年楽しみにしているようです。こうしたふれあいが契機になって、よく声をかけてくれるのです。いつかこの子供たちにも私の昔話をしてやりたいなあ

思うこのごろです。

私は、祖母の口から語り伝えてくれた話の中で「スズメの親子」が一番印象に残っています。

むかし、むかしあったげな。すずめの親子がおって、成長した子すずめたちは、それぞれお嫁に行ったげな。ある日のこと、母すずめが床につくほどの重い病気になった。そこで父さんすずめが、「母キトクスグコイ」と電報を打ったげな。電報を受け取った妹すずめは、これは大変と言って野良仕事をほうり出し、みのかさつけたまま母のもとへと急いだ。ところが、姉はきれいに化粧をし、きれいな着物を身につけて母を見舞ったが、もうその時は、母は子供たちの名前を呼びながらあの世の人となっていたそう。妹は身なりもかまわず母に逢いたい一心でかけたので、母の死に目に合ったそう。だから今でもすずめは、きれいな着物こそ着ていないが、米でも虫でも一生食べものには困らないそう。ところが、美しい着物は着ているが、姉は母の死に目にも合わず、一年中木をつついて木の虫だけしか食べられないそう。それを木つつきと呼んでいる。きれいに着飾っている人たちがばかりが幸せではない。いくら貧しくても心の優しい人は、神様が見ていなさるのだよ。これで昔こっぼし。

と語ってくれた祖母の話は、今でも心の奥に焼きついて忘れることができません。その語る時の姿や声や部屋の様子が、まざまざと浮かびあがってきます。

私たちの読書会は、歴史の勉強や、夫婦の問題、あるいは嫁と姑の立場などを話し合いました。また10月には、連続テレビ小説「はね駒」について感じたことなど話題にしました。ただ本を読むだけでなく、こうした話し合いは、私たちにとってすごく関心を与え、いろいろと得ることが多いのです。家族の理解、夫の理解などについても熱心な意見が出て、読書の喜びを語り合える一時だと言えるでしょう。

子育ての終わった私たちだけでなく、幼児を持つお母さんたちに参加していただき、少しでも勉強してもらえば心がなごみ、知識も増し、読書への興味が芽ばえてくるのではないのでしょうか。

昭和52年6月、会員22名をもって結成されたこの会も年を追って増え続け現在35名となりました。40才代より70才代まで年齢層も厚く、この中には市立図書館、厚生センター、乳児院等のボランティア活動をしている方も多く、子育ても終り、眼を社会に向け上手に子離れし充実した日々を送りたいと願っている者の集りです。

県立図書館より借りた本を回し読みして、ときには新刊書を買って求め、2ヶ月に1回読書感想会を開きます。これが大変楽しく話合っているうちに人生の機微にふれ思わぬ発見をすることが度々です。

また年1回日帰り研修旅行を行い、毎回団体割引で出かけます。思い出に残った処は、益田市万葉公園、幡籠湖。三徳山、三朝温泉。夢千代日記の湯の里温泉。鳥取砂丘等、今年は木幡籠古館、山荘、本陣の見学をしました。

朝日婦人会々報「婦人あさひ」も創刊10周年になりますが、この会報も読書会を母体として生れました。

以上のような活動状況ですが、和やかに気軽に友情の輪を広げながら読書に親しんでいます。

1人年会費500円納め、婦人会本会計より1万円の助成金を受けて運営しています。

今年は創立10周年と、読了した本の百冊突破を記念して何か楽しい行事をしようと話しています。

今までに読んだ本の中で、史実をテーマにしながら

読書会グループ紹介
私達のグループと読んだ本⑤
朝日婦人会読書会

ら作者の創作的なものに人気があり「序の舞」「千利休とその妻たち」「天障院篤姫」「流星」「絵島疑獄」「助左衛門四代記」「華岡清洲の妻」等でした。華岡清洲の妻の中で、夫の母は妻の敵である。それは嫉妬と云うかたちで外へ現われようとしている。どこの家でも表に出さないだけで恐らく同じことが起っているに違いない。姑と嫁が仲良くやっているのはよほどうまく騙し合っているにちがいないと加恵(嫁)は思った。この一節に書かれていることは未来永劫の宿題のように思われます。

特に話題になった作品は、「食卓のない家」「膏桐」「やまあいの煙」「月山」「海も暮れきる」「旅路」「金閣寺」等でした。「やまあいの煙」では、火葬で死体を焼くことを職業としている男とその妻と子の三人の暮しを通して人生の無情と、ほのぼのとした温もりと安らぎを感じました。

「金閣寺」は、三島流の美学の結晶を星のように散りばめた美文で書かれていましたが、三島由紀夫の狂気を感じました。私達の読書活動は一昨年、県読書推進運動協議会より表彰を受けてまして大変嬉しく思っております。

グループ名 朝日婦人会読書グループ
会員数 35名
代表者 堀 美也子

NEWS

☆「子どものつどい—小学校高学年向—」の開催

5月24日(日)県立図書館において開催した。プログラムは、①インタビュー「ぼく・わたしの読んだ本」②おはなし「ヨーロッパの子どもたち—学校でのくらしぶり—」講師、松江市立法吉小学校、宍道正年先生③本の紹介—海外をする本—④切り絵OH P「たなばた」⑤レクリエーション—だれにでもできるかんたんマジック—。掛合町や美保関町からも参加があり、約100名の子供達が楽しい一時を過ごした。



☆島根県読書推進運動協議会役員会の開催

5月22日むらくも会館で開催された。62年度事業の主なものは①読書普及研修会(県公図と共催)8月と1月に2会場で②読書体験記の募集(10月頃)③「ふれあい」年3回、「島根読進協」年1回の発行配布。

☆島根県公共図書館協議会総会の開催

6月4・5日県立図書館で開催された。
●62年度の研修会は、①読書普及研修会(読進協と共催)②子供の読書担当職員研修会(11月)③図書館等読書施設職員研修会(3月)。いずれも東部、西部の2会場で。
●永年勤続職員の表彰者(10年以上勤続職員)
前西郷町公民館図書室 山根末子氏
前浜田市立図書館 田野真理子氏

☆人事異動

お世話になりました。
普及係主幹 西山有信(松江市立白湯小学校へ)
よろしくお願ひします。
普及係長 黒崎秀雄(県労政訓練課労働福祉係長から)